

創設時は松江市街地の中心部を二中校区としていたが、昭和31年に持田中学校、昭和40年に第五中学校と合併した結果、校区は東部、北部に大きく拡大し、母衣、川津、朝酌、持田の4小学校を校区とすることになった。

昭和50年代前半までは、諸官庁および各種の公共施設や商店が集中する中、旧城下町の名残をとどめる歴史的・文化的遺跡が散在する母衣地区、住宅地周辺に豊かな田園地帯を残す川津、持田地区、水郷の趣をただよわす朝酌地区等、変化に富んだ特色ある地域を形成してきた。

その後、昭和56年の「くにびき大橋」開通と共に、国道485号線、国道431号線を中心とした道路整備が進められた結果、大・中型店、各種遊技場、飲食店等の進出による商業地域化が進み、学園通りを中心として活気にあふれている。一方、相次ぐアパート、マンションの建設に加え、国道431号線、同バイパス沿いに平成ニュータウン、四季が丘、学園台、ニュー学園台、あじさい団地などの住宅団地が造成され、川津地区を中心に地域の様子が一変した。

校区には島根大学、県立松江東高、市立皆美が丘女子高、県立松江養護学校、くにびきメッセ、市総合体育館などがあり、学園地区としての特色も備えている。